

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800113		
法人名	株式会社 ホームケアサービス		
事業所名	グループホーム 三苦駅前		
所在地	〒811-0201 福岡県福岡市東区三苦4丁目8番1号		092-410-7233
自己評価作成日	平成26年12月23日	評価結果確定日	平成27年03月04日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ひとりひとりが、毎日をゆっくりとご自分のペースで過ごしていただけるよう、心掛けています。日々の生活の中で、個々が持っている力を出来る限り活かせるよう環境を整え、出来る事を見つけて行って頂いています。その他には季節を感じていただける様な行事やレクリエーションにも力を入れ、季節の変化や楽しみを持って頂けるようにしています。食事は外部に委託していますが、月に2~3回程度はお好きな物を提供したり、職員と一緒に食事を作ったりして頂き、皆様楽しみにしておられます。高齢者複合型施設の2階にあり、1階には小規模多機能、3階には有料老人ホームがあり、年間行事は合同で行うこともあり大変賑わいます。さらに、家族や友人、地域との関係を断ち切らないよう行事への案内や、個別に行う誕生会は家族を招いて行う等しています。医療面でも協力医療機関に本土井病院があり、状態の変化に素早く対応出来るよう、日々の状態把握に努め、主治医や看護師との連携を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「三苦駅入口、バス停から徒歩3分の利便性の良い、マンションが建ち並ぶ新興住宅街に、3階建て複合型福祉施設の2階部分に、2ユニットのグループホーム「三苦駅前」がある。併設事業所と合同で開催される秋祭りには100人以上の参加者(地域住民・家族・ボランティア)で盛り上がり利用者の楽しみの一つになっている。利用者の健康管理は、かかりつけ医と協力医療機関の活用と、2人の看護師と介護職員の観察力と異変に気づく目で、早期対応に繋げ、充実した医療連携が図られている。利用者が集まるリビングルームは、行事の写真やちぎり絵等を飾り、季節感を漂わせ、利用者的一天を大切に支援している。また、それぞれの生活に寄り添った外出や買物等を、利用者と職員と一緒に企画して、利用者の自立を尊重しアットホームな生活を「安心介護」でサポートし、地域に密着した事業所として今後が期待される「三苦駅前」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シダプル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		093-582-0294
訪問調査日	平成27年01月22日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	十分とは言えないが、みんなで考えた理念を実践できるよう心掛けている。	法人理念と、1年前に全員で考えたホームが目指す介護のあり方を示した独自の理念を掲示し、毎月の会議の中で、実践できているか検証し、常に理念を意識したケアの実践に取り組んでいる。また、職員は、仕事で悩んだり、迷った時には理念を振り帰り、介護の原点に戻っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の秋祭りの際、昨年に引き続き公民館のサークルに参加して頂いている。外でお祭りを行っていたところ、近所の子供達が飛び入りでダンスを披露して頂いたり等があった。	利用者と職員は、地域の一員として、清掃活動や公民館行事に参加し、併設事業所と合同の秋祭りには、100人以上の参加者(地域住民、家族、ボランティア)で盛り上がり、地域の子どものダンスが披露され、地域交流の輪が広がっている。又、昔懐かしいチンドン屋さんが、ボランティアで来訪し利用者は笑顔に包まれていた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られる方には、その都度アドバイスをさせて頂き、電話での相談などもお受けしている。スタッフは地域の清掃活動などにも参加させて頂いている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動や行事の様子などを毎回報告している。参加して頂いた皆様からは意見や要望などを頂戴し今後の改善に活かしたいと考えている。その他、行政や後見人の方などに参加して頂いた際には色々な制度の説明などをご家族にして頂く事ができた。	会議は、2ヶ月毎に小規模多機能ホームと合同で開催し、各事業所の運営状況や取り組み、課題を報告し、参加委員からは、外部の目を通した質問や要望、情報等を提案してもらい、出された意見は、ホーム運営や、業務改善に活かされるように努力している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例などは早めに地域包括に相談し、早期解決に向かうよう努めている。	行政主催の会議や研修会に参加し、情報交換しながら連携が図られている。また、運営推進会議に、地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情を理解した上でアドバイスや情報を提供し、協力関係が築かれている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スピーチロックなどは時々あるが、気になる言葉やマネしたい言葉を記入する表を作り、スタッフ同士で気をつけるように心掛けている。	研修会に参加した職員が、内部勉強会の中で、禁止行為の具体的な事例を出して検証し、身体拘束が利用者にあぼす弊害について理解し、スピーチロックや薬の抑制等も含めた、「身体拘束をしない・させない」介護の実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修にて学ぶ機会を設け、スタッフにも周知するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている方がおり、後見人の方の面会もあり、職員は必要性の理解はある。研修等にも参加している。	現在、権利擁護に関する制度を活用されている利用者があるので、職員は、日常生活自立支援事業や、成年後見制度の重要性を理解し、資料やパンフレットを整備している。また、利用者や家族が必要とする時には、内容や手続きの方法を説明し、申請までの支援が出来る体制が整っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には職員2名以上で契約書、重要事項説明書を読み合わせ、説明を行っている。その際に、疑問や質問を受け説明している。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	食事は外注のため、月1回の食事会議の際に入居者に参加され、意見を言って頂く事がある。またご家族には面会時に意見や要望を尋ねている。	日々の介護の中で、職員は利用者の思いや意向を聞き取り、家族面会や行事参加の時に、利用者の健康状態やホームでの暮らし振り、思いや意向を報告し、家族からは、意見や要望、気になること等を聞き取り、ホーム運営や利用者の介護計画作成に反映させている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング時に出た意見や提案を検討し改善している。社内にも相談窓口があり、個別に相談が出来るようになっている。	毎月職員会議を開催し、管理者は、職員の意見が出しやすい雰囲気の中で、職員の要望やアイデア等が出され、充実した会議になっている。また、欠席の職員には、事前に書面で聞き取りし、全員参加の会議として開催し、決定事項は職員全員で共有している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や実績が反映されるよう考えられている。毎年昇給も実施されている。また、個々にあった年間の研修計画も立てられ、その他にも学びたい内容の研修がある場合には研修に参加することも出来、向上心を持てるように努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については、一切排除を行っていない。また、職員個人の得意な部分が発揮でき、自己表現ができるよう勤務表等で配慮をしている。	職員の募集は年齢や性別、資格等の制限はなく、採用後は、新人研修やスキルアップ研修で、職員の介護技術の向上に取り組んでいる。また、ロッカーや休憩室を整備し、休憩時間や勤務体制に柔軟に配慮し、職員一人ひとりが、意欲を持って働ける職場環境を目指している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内外の研修にて学ぶ機会を設け、スタッフにも周知するようにしている。	年間計画の中で、外部、内部の研修会に参加し、職員一人ひとりが、学ぶ機会を得て、利用者の尊厳ある介護のあり方を習得し、言葉遣いや対応に注意し、利用者の目線で介護し、利用者の人権尊重に取り組み、利用者が安心して暮らせる体制を目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間予定表を作り、全員が研修を受けられるようにしている。また、原土井病院内で行われている研修にも参加し、その他個人で学びたい研修がある場合には積極的に参加している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内や系列内に5カ所のグループホームがあり、行事や研修の際には互いに訪問したりしている。同建物内の小規模多機能とは合同で行事や研修をおこない、行事の際には系列の他の事業所の職員に訪問して頂き音楽会を開いてもらっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や担当ケアマネ、ソーシャルワーカー、看護師等からの情報を得て、ご本人の生活歴から話題作りを行い、お話しがしやすいことから尋ねるように心掛けている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の見学や、申し込みの時点で十分な時間を掛け不安や悩み等をお聞きしている。必要があれば、その都度電話等をし安心していただける様な環境作りを心掛けている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話しの中で、本人や家族の状態を考えながら、他のサービス利用も視野に入れ考えるように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴や思い、その人らしさを大切に、その方に出来る事を見極めながらユニット全体で支え合いながら生活をしていくよう心掛けている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とともに、ご本人を支えていけるようにご相談し協力して頂いている。家族だけでは外出が難しい場合などは職員が送迎のお手伝い等させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の面会が途切れないようお声掛けをしたり、近所のスーパーに職員と買い物に行き、買いたい物を買に出かけられるようにしている。	利用者の友人、知人、近所の方との関係が継続出来るように、職員は、電話をかけた後、行事の案内等を送る努力をしている。利用者の希望を聴いて、買い物や、以前利用していた事業所に遊びに行ったりして、利用者の馴染みの関係継続を目指している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲が良く互いに教え合いながら生活をされている。孤立しがちな方には職員が個別に関わり孤立しないよう、利用者同士の雰囲気を読み取りながら支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の病室に見舞ったりしながら経過のフォローをしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人や家族と話しながら出来る限り本人の意向にあった生活を支援するよう心掛けている。また、出来る限りの残存能力を活かせるような支援が出来るよう努めている。	職員は、利用者と日常会話から、思いや意向を聴きだし、記録して職員全員で共有し、利用者の介護サービス提供に活かしている。意向表出の困難な利用者には、過去の記録を読み返し、職員が利用者寄り添い、話しかけ、利用者の表情を読みながら、思いや意向の把握に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や家族の面会時に、これまでの生活歴などの聞き取りを行い、今の生活に活かせるよう心掛けている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや連絡事項の用紙にて情報の共有が出来るようにしている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に日々のケアの中で気になったことなど、利用者全員の支援内容を話し合い、家族の面会時に希望や要望を聞き取り、その中から出た意見をケアプランで活かすように努めている。	介護計画は、利用者や家族と話し合い、意見や要望を聴き取り、カンファレンスやモニタリングを定期的に行い、職員間で、意見を出し合い、「課題整理総括表」を基に、利用者本位の介護計画を作成している。また、作成後の状態を職員がチェックし、介護計画の見直しを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや連絡事項の用紙にて情報の共有が出来るようにしている。また、ケアの方法の見直し等ある場合は職員全員で情報を共有し把握するようにしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のニーズに関しては家族や後見人と話しながら柔軟な支援やサービスが出来るよう心掛けている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設隣の借りている畑にて、畑仕事が出来利用者が職員、ボランティアと一緒に野菜作りを行っている。また、近所の保育園の慰問や公民館サークル等の協力を得ている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族が納得したかかりつけ医を基本としているが、往診医に変更されている方も多。家族とかかりつけ医に受診される場合は必要に応じて職員が同行したりお手紙をお渡しするなどしている。	馴染みのかかりつけ医と、往診体制が確立している提携医療機関の選択をしていただき、利用者や家族が、納得する医療受診体制を整えている。また、かかりつけ医の受診は、家族同伴でお願いしているが、利用者の状態に合わせて職員が同行し、かかりつけ医と、医療情報の共有を図っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りに看護師も参加し、日々の状態の報告をしている。処置が必要な時は連絡し、処置を行っている。また、主治医からの指示で、必要に応じた受診を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には十分な情報交換を行っている。入院中にはお見舞いに行き、経過状況等の情報交換もしている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医との面談の機会を設け、早めに今後の話し合いが出来るよう心掛けている。	ホームで出来る重度化に向けた支援体制について、利用者や家族と話し合い、母体医療法人と連携して、継続した、医療が行われるよう取り組み、主治医、家族の協力と、職員の意識改革を通して、利用者が安心して、最後まで暮らせる場所を確保し、重度化に向けた支援体制が始まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が救命講習を受けられるようにしている。事故発生時の対応は、各ユニットに対応の仕方のパンフレットを準備している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。発生時の通報手順の確認や、避難時の搬送方法等の手順確認を行っている。	年2回避難訓練を実施し、昼夜を想定して、2階の利用者18人を短時間に2階の火元に遠いベランダに、避難誘導出来るように消防署の指導を得て行い、回を重ねるごとに、時間短縮に結び付けている。また、通報装置や、消火器の使い方を確認し、地域の協力要請も行っている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で注意し合い、尊厳やプライバシーを守るように優しい声かけや、さりげないも守りで対応している。	共同生活の中で、利用者一人ひとりのプライバシーを守ることの難しさを理解し、職員一人ひとりがり自覚して、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、利用者の個人記録は、鍵をかけて保管し、職員の守秘義務は、採用時に誓約書を提出して貰い、情報漏洩防止と合わせ周知が図られている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自己決定が出来るように心掛けている。物作りのレクリエーションでは何種類かの物から好きな形や色の物を選んで頂き、思い思いの物を作って頂いたりしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを崩さないように、日中は起きて活動的に過ごして頂いているが、個人のペースや希望を崩さないような支援を心掛けている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	前年度に引き続き、化粧療法を継続して行っている。女性には基礎化粧をして頂く時間などを作り、男性にはひげ剃り後にホットタオルで顔を拭いて頂いたりしている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、外注のため自分たちで作る事は難しいが、月に何度か好きな物の出前をしたり、職員と一緒に調理できる物を手作りするようにしている。その際は職員と一緒に近所のスーパーへ買い物に行ってもらっている。	配食サービスを利用し、栄養やカロリーに配慮した健康的な食事が、美味しい食欲に繋がるように、数名の職員が検食を兼ねて料理を味わい、毎月の食事会議に利用者も参加し、味や彩り、盛り付け等の意見を出して、対応して貰い、ずいぶん美味しい料理になってきて、利用者の食欲増進と、健康の源になってきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外注のため、カロリー計算されたメニューが提供されているが、利用者に応じて食事形態を変えたり、食が進まない方に対しては主治医と相談のうえ、補助食やお好きな物を食べて頂いたりしている。水分量は1日を通して摂取量を記録し状態の把握に努めている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、ほとんどの入居者の仕上げ磨きに関わっている。また、口腔ケアが十分にできない方には定期的に歯科往診を受けられ、口腔内の清潔保持に努めている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけするなど、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。	職員は利用者の生活習慣や、排泄パターンを把握し、タイミング良く声かけし、失敗のないトイレでの排泄支援に取り組んでいる。夜間も出来るだけトイレ誘導を行い、利用者一人ひとりが、自立に向けたトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応	乳製品や野菜ジュースなど、便秘予防になるような食品を摂取して頂く様心掛け、毎日体操を行うなど、出来るだけ薬を使用せずに済むよう心掛けている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず、利用者の体調などに合わせて入浴して頂くにしている。入浴時は1人ずつゆっくりと入浴していただける様に心掛けている。	週2～3回の入浴を行い、利用者の健康状態や、希望を優先した楽しい入浴支援が、出来るように取り組んでいる。入浴を拒む利用者には、職員が交代して、タイミング良く声かけし、無理強いのない、入浴の支援を行っている。また、入浴の時間は、利用者職員が、ゆっくり話せる機会と捉え、何でも話せる環境である。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力や体調、生活習慣に応じて臥床時間を設けるなど、適度な休息が出来るようにしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はカルテにファイルしており、全職員が把握できるような状態になっている。また、変化を細かく主治医に報告し適切な服薬に繋がるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみや食器洗いなど主婦としての役割を継続して頂いている。季節にあったレクリエーション等を取り入れ、干し柿作りや借りている畑での野菜作りなどを行っている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望のある方は天気の良い日には職員と一緒に散歩に行ったり、買物に行くなどし、季節毎に外出レクリエーションを行っている。その他、ご友人や家族に家族に協力して頂き、外出や外食をして頂いたりもしている。	天気の良い日は、スーパーまで散歩を兼ねて買い物に出掛けたり、季節毎に外出レクを取り入れ、九州場所のお相撲観戦が抽選で当たる等、利用者の気分転換を図っている。また、家族や友人の協力を得て、ドライブや外食に出掛け、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の希望により、小銭程度所持している方もおられる。利用者の希望に応じ一緒に買い物に行くなどの支援をしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望時には使用出来るようにしている。定期的に友人や親族の方から手紙が来ている方もおられる。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の飾り付けを行い、日々の写真や入居者と一緒に行った貼り絵などを掲示し、心地良い空間作りを心掛けている。	3階建てビルの2階部分に、2ユニット18室の居室と、2つのリビングルームがあり、壁や廊下には、利用者と職員の季節毎の作品を飾り、季節感溢れる飾りで、家庭的な雰囲気を出し、明るくて、清潔な共用空間である。また、全館バリアフリーを設置し、利用者の安全に配慮した建物である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれご自分が好きな場所で過ごしていただけるよう心掛けている。意思表示が難しい方も皆さんと一緒に過ごせるよう工夫している。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好きな物で各部屋、好みの飾り付けをし、居心地の良い空間になるよう工夫している。	利用者が馴染みの机やタンス、椅子やソファ、鏡等を持ち込み、自宅と違和感のない配置にして、利用者が安心して暮らし続けるように工夫し、クッションフロアを使用し、清潔で清掃が行き届き、居心地の良い居室になっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋にご自分で洗面が出来るように洗面台があり、ホール内、トイレ、脱衣所、浴室、それぞれに手すりが付いている。また、転倒時の衝撃が和らぐよう、床にはクッション剤を使用している。		